



東北大学



2014年7月24日

報道機関 各位

東北大学災害科学国際研究所

『災害保健医療対応に関する国際シンポジウム—兵庫行動枠組みの見直し—』  
を開催しました

東北大学災害科学国際研究所は、5月21日～22日の二日間、アメリカ合衆国ワシントンDCにおいて諸機関と共同で、『災害保健医療対応に関する国際シンポジウム—兵庫行動枠組みの見直し—』を開催いたしました。本シンポジウムは、東日本大震災から得られた教訓を世界で共有し、各国の今後の災害時のリスク管理に生かすことを目的としております。詳細について御紹介させていただきますので、取材を希望される場合は、下記問い合わせ先まで御連絡いただけますようお願いいたします。また合わせて、紙面、番組等で幅広く御紹介いただけたら幸甚です。何卒、よろしくお願い申し上げます。



シンポジウムの様子

【問い合わせ先】

東北大学災害科学国際研究所

災害医療国際協力学分野

教授 江川新一

Tel & Fax : 022-273-6286

E-mail : egawas@surg1.med.tohoku.ac.jp

## 《概要》

本シンポジウムは、東北大学災害科学国際研究所と、日本学術振興会ワシントンオフィス、ジョージワシントン大学、米国軍保健衛生大学／災害人道医療支援センター、米国国立小児病院が、共同で開催しました。日本、米国を中心に、フィリピン、インドネシア、台湾、スリランカ、イスラエルなどから、災害保健医療対応の専門家、UN-ISDR STAG、OCHA、WHOなどの国連組織、災害関連科学者が広く参加しました。

2015年3月、仙台市において国連防災世界会議が開催され、兵庫行動枠組み（HFA）がHFA 2へ改訂される予定です。今回の国際シンポジウムの成果は、災害のリスク減少・リスク管理のためには、地域社会における人々の「健康」を中心に据えるべきであるという点で出席者が合意し、HFA 2への提言として発表できたことです。

世界の防災に対する関心は、2004年インド洋大津波を転機に高まり、2005年の国連防災世界会議（於神戸）では、兵庫行動枠組み（HFA）が採択されました。今後、今回の国際シンポジウムの成果に加えて、第6回アジア防災閣僚会議（2014年6月22-26日、於タイ・バンコク）、国連準備会合（7月、11月、於ジュネーブ）における議論を経た上で、2015年3月の国連防災世界会議（於仙台）で、兵庫行動枠組みの改訂（HFA 2）が行われます。

東北大学災害科学国際研究所は、来たる国連防災世界会議において、「健康」という観点をHFA 2に盛り込み、更に実効性のある防災・減災の枠組みを示せるよう、努力してまいります。

今回の国際シンポジウムの詳しい成果に関しては、以下を御参照ください。

1. Disaster Medicine and Public Health Preparedness（学術誌 災害医療と保健医療の備え）6月号（英語）

<http://journals.cambridge.org/action/displayAbstract?fromPage=online&aid=9284634&fileId=S1935789314000500>

2. 災害保健医療対応に関する国際シンポジウム成果報告書（政策実務者向け、日本語）

<http://www.irides-icdm.med.tohoku.ac.jp/pdf/2014-06-22-p.pdf>

3. 上記2. の英語版

[http://www.preventionweb.net/files/36639\\_sin477086335j9n8pcbgun46odujjnoc99o.pdf](http://www.preventionweb.net/files/36639_sin477086335j9n8pcbgun46odujjnoc99o.pdf)